

都城市議会議長様

令和7年12月19日

広報広聴委員長 森りえ

意見交換の場に関する実施要項2(8)①の規定により、次のとおり報告します。

開催日時	令和7年12月6日(土)午後3時40分～午後4時30分
開催場所	南九州大学 2号館
出席議員	森りえ 小玉忠宏 畑中ゆう子 川内賢幸 広瀬功三 羽田野徳寿 坂元唱子 綿屋善明 別府英樹 黒木優一 中村千佐江 楠見千穂子 成合円美佳 たかだみか
参加人数	南九州大学学生23名 高校生15名 中学生1名 議員14名
団体名	都城万博実行委員会
テーマ	高校生のバス利用を増やすためには(公共交通について) 都城の未来について
意見交換の概要 (主な意見・質問・要望等及び答弁)	<p>※実行委員会で参加者を6班に分けて意見交換を行った。</p> <p>① 高校生のバス利用を増やすためには(公共交通について)</p> <p>高校生の意見</p> <p>通学時には乗り切れないほどの時がある。 バスの本数が少なくて、あまり利用しない。 バスの乗り方が分からない。 遠くから通学している高校生が困っている。 通学時は自転車を使っているので、困っていない。 都工、西高など、複数の学校で『通学用バス』のシェアは。 夕方のバスの便を増やすして、部活終わりに使えると良い。 お金がかかる。『ジュニアバス』があると良い。 保護者の送迎で渋滞する。</p> <p>大学生の意見</p> <p>自家用車を使うので、バスに乗る機会はほとんどない。</p> <p>② 都城の未来について ～居場所・遊び場～</p> <p>公園の情報が少ない。 公園でのボール遊びが「ダメだ」と言われる。 公園に遊具はなくても良いから、水飲み場とトイレが欲しい。 図書館の利用者が多いので、勉強ができる場所がいろいろな所に</p>

	<p>欲しい。 中学生以上も遊べる「遊び場」が欲しい。</p> <p>～住みやすい「都城市」のために～</p> <p>豊かな自然を生かした、都城市的魅力を発信する。 まちがコンパクト。中心部は住みやすいが周辺部は不便。 周辺部も住みやすい環境に。 <u>若者の意見を市政に反映する。</u> 移住者にお金が出ている分を、市民に還元する。 もっと都城市的のいいところを発信する。</p> <p>★大学からの意見★ ※後日、報告(提案)あり</p> <p>今回の意見交換会を通じて、以下の 3 点が若者の定住意欲を高める鍵であることが示唆された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「移動の自由」の確保 通学環境の劇的な改善は、進路選択の幅を広げ、保護者の負担(送迎)を軽減する。 2. 「居場所と楽しみ」の提供 娯楽施設や学習環境の充実は、若者の日々の満足度に直結する。 3. 「声が届く」実感の醸成 学生の意見を調査し、政策に反映させるプロセスそのものが、地域への愛着(シビックプライド)を育む。
その他 (今後の課題・感想等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回は、南九州大学の学園祭の中でのプログラムとして、『都城万博』実行委員会において「意見交換会」が設定されていたため、時間の制限があった。(意見交換の時間が少し短かった。) ○ その限られた時間・プログラムの中で、グループでの意見を引き出すため、キャッチボールができる議員の「ファシリテート力」が必要となるため、勉強会等の必要性を感じた。 ○ 議員は、話題の取り掛かりをつくること、話しやすい雰囲気を作ることが重要で、自分の考えを出し過ぎると他の参加者（学生達）が発言しづらくなるため、進行に当たっては注意が必要。 ○ 事前に、グループ内の議員間（2～3人）での記録やファシリテート等の役割分担の協議（打合せ）ができていなかった。 ○ 会議の記録と、「個人メモ」の違いを共有・理解する。 ○ 高校生や大学生の様々な意見を聞くことができた。 ○ 今後は、継続的な大学との連携も視野に広聴活動を模索する。 ○ 今回、出された意見（大学側からの意見含む）については、広報広聴委員会で集約・分析し、政策提言協議会（全体会・分科会）に提案していく。